

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170700175		
法人名	医療法人 天心堂		
事業所名	グループホーム さくら荘		
所在地	佐賀県鹿島市大字中村2191-2		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年11月30日	外部評価確定日	平成30年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように、利用者様とのふれあいを大切に、寂しくないように声かけを多くして、いつも笑顔で生活して頂けるように支援している。家族様も安心して頂けるように、職員も家族の一員として振る舞い、日常の状況や健康面の事などこまめに報告し、信頼関係作りに力をいれている。家族様参加型の行事を継続的にを行い、利用者様と一緒に楽しい時間を過ごしていただくようにしている。なかなか参加できない家族様もいらっしゃるので、定期的にさくらだよりを発行して日々の生活状況をお知らせしている。利用者様の高齢化・介護度の重度化に伴い、最期までさくら荘で過ごしたいと看取りの希望がある。その為、法人の医療スタッフと連携をとり最期の住処としての役割を担っている。今年度は地域に溶け込み、地域に根ざすグループホーム創りという理念のもと、今までも地域から踊りの慰問など積極的に受け入れていましたが、反対に地域の老人会に職員が出向き、グループホームの紹介をしたり、予防体操などを一緒にしたりと関係作りに力をいれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

理念のキーワードである「笑顔」を大切にした事業所である。一日の中で、管理者は利用者一人ひとりの顔を思い浮かべ、笑顔があったかと自問自答している。その姿勢は職員にも伝わり、事前アンケートには「訪ねると笑顔で迎えてくれる」「明るい表情で対応してくれる」等々が寄せられている。また、行事と同日開催の家族会では意見交換の他に事業所がプレゼンターとなった認知症サポーター養成講座や看取りに関する講座も開かれ、家族の一員であることを実践している。更に特筆すべきは終業時間の徹底である。きちんと時間が守られている陰には、職員同士の協力と各々に力量があることもうかがえる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に溶け込み、地域に根ざすグループホーム作りを理念として、慰問の受け入れや、地域行事への参加を行っている。また、地区老人会へ職員を派遣し健康体操などを行い顔の見える関係を築いている。	地域に溶け込み、地域に根ざすグループホーム作りを理念として、慰問の受け入れや、地域行事への参加を行っている。また、地区老人会へ職員を派遣し健康体操などを行い顔の見える関係を築いている。	理念は開設時の職員達により創られたものである。現在も当初のまま変更はない。職員達が想いを込めた言葉を繋いで文章になっている。なかでもキーワードは「笑顔」である。玄関や事務スペースへの掲示、また朝礼時の唱和で意識付けを図っている。笑顔で向き合えば笑顔が返ってくるという姿勢には利用者に寄り添うケアがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の班の一員として、回覧板を回していただき、公民館掃除や溝掃除に参加。またおくんちに参加している。地区の方からの相談にもものっている。	地区の班の一員として、回覧板を回していただき、公民館掃除や溝掃除に参加。またおくんちに参加している。地区の方からの相談にもものっている。	自治会に加入しており、回覧板からも地域の情報を得ている。そこに暮らす一員として清掃活動等にも積極的に参加している。法人が開催する夏祭りには近隣住民も訪れ、日頃から見守りや連絡を頼める関係は築けている。また、法人全体の今年の目標が「地域に発信していこう」であり、事業所も老人会での講座を開いている。このことは運営推進会議でも高評価を得ており、講座の要請などが話題となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会に参加し、グループホームの特徴を紹介し、悩み事など相談して頂くように声かけしている。	老人会に参加し、グループホームの特徴を紹介し、悩み事など相談して頂くように声かけしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しているが、あまり意見はでない。こちらの活動を報告し、状況を知っていただいている。	2ヶ月に1回実施しているが、あまり意見はでない。こちらの活動を報告し、状況を知っていただいている。	法人内の他事業所と合同の会議である。近隣住民が第三者委員を引き受け、順番で参加した家族は事業所内の様々なことに触れ、出席して良かったと感想を伝えている。職員は、この会議を外部の人の目が入る貴重な機会と捉え、忌憚のない意見も出してもらおうと努めている。しかし、自己評価に記す通り課題もある。今後は質問の仕方を工夫するなど、限られた時間であっても更に有意義なものとなるよう模索中である。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、現状を伝えている。法人の研究発表会などにも参加していただいている。	運営推進会議に参加して頂き、現状を伝えている。法人の研究発表会などにも参加していただいている。	市担当者とは運営推進会議や法人の研究発表会でも顔を合わせており、日頃から顔馴染みである。問い合わせ等にはまず電話を掛けることが多いが、実直に対応してもらえる関係は築いている。地域の同業種の事業所が集まり、毎月勉強会を開いているが、講師として要請すれば対応してもらえる。また、年二回、介護相談員も受け入れており、利用者との橋渡し役として気付き等に期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待の勉強会を実施し、拘束しないケアの方法を検討しながら日々取り組んでいる。	身体拘束、虐待の勉強会を実施し、拘束しないケアの方法を検討しながら日々取り組んでいる。	指針があり、勉強会は年に数回実施され、法人内や外部研修、更に事業所独自でも行われている。日中の玄関に施錠はなく、センサーはあるものの職員の目配りによって安全な生活が確保されている。仮に外へ向かう利用者があれば行動を抑えることなく、暫く一緒に歩くことを基本としている。無理に引き返すことはない。職員に徹底されているのは、自分がされて嫌なことはしないという、ごく当たり前の意識である。また、拘束しないケアがアイデアと工夫により実践されているのも特長である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、虐待とはどういうものかを知り、ケアしている。特に言葉の暴力には注意するように声かけし、接遇に力を入れている。	勉強会に参加し、虐待とはどういうものかを知り、ケアしている。特に言葉の暴力には注意するように声かけし、接遇に力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施はできていない。	勉強会の実施はできていない。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に利用者・家族に現状の問題や不安点を確認し説明している。解約は死亡がほとんどであるが病院への転院時などは十分主治医と共に話し合いを行っている。また利用料の改定時などは、改定内容を明記した文書を送付し、説明している。	契約締結時に利用者・家族に現状の問題や不安点を確認し説明している。解約は死亡がほとんどであるが病院への転院時などは十分主治医と共に話し合いを行っている。また利用料の改定時などは、改定内容を明記した文書を送付し、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の定期的なアンケートを実施し、質問とその回答を公表している。頂いた要望や意見についてはカンファレンス等で話し合い対応している。	年2回の定期的なアンケートを実施し、質問とその回答を公表している。頂いた要望や意見についてはカンファレンス等で話し合い対応している。	家族の来所は多い。毎月の利用料支払いを敢えて持参方式にもしている。職員は家族との会話内容をパソコン上に記し、それは全員が共有できる仕組みとなっている。行事と同日開催の家族会では気軽に何でも話してもらえるよう努め、現在はクリスマス会を準備しており、日々のスナップ写真がスライドショーに編集され披露を待っている。様々な機会を設け、家族の想いを汲み取ろうとしている。また、季節ごとに刊行される事業所便りは、なかなか来られない家族にこそ届けたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の定期的なアンケートを実施している。	年1回の定期的なアンケートを実施している。	月一回の職員会議は2ユニット合同で行い、休みの職員も出席している。約一時間を要し、カンファレンスを主とした内容である。進行役は全員が担当し、当番の職員には準備も任せることで自覚を促している。全員が集まるためケアの方法のズレが判明したり、その後の改善策が決まるのも早い。また、管理者としては働き易い職場であることも重要で、職員とのコミュニケーションを大切にし、休暇希望にはできるだけ応えるよう配慮している。法人が行う職員向けアンケートでは、現場の声が上部にも届くようになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施し、スキル評価を行っている。年度始めに目標を立て、実践できるようにサポートしている。	人事考課を年2回実施し、スキル評価を行っている。年度始めに目標を立て、実践できるようにサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月介護保険部の勉強会・さくら荘の勉強会を実施。参加状況に応じて加算される学習ポイント取得制度を導入。またeラーニングも取り入れ各自が自分のペースで勉強できる環境になっている。	毎月介護保険部の勉強会・さくら荘の勉強会を実施。参加状況に応じて加算される学習ポイント取得制度を導入。またeラーニングも取り入れ各自が自分のペースで勉強できる環境になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿島・太良・嬉野地区のグループホーム10施設で交流会を毎月開催し、職員の勉強会、入居者様のレクリエーションなど開催している。今年度は事務局として活動している。	鹿島・太良・嬉野地区のグループホーム10施設で交流会を毎月開催し、職員の勉強会、入居者様のレクリエーションなど開催している。今年度は事務局として活動している。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会に行き、本人様と話をしして要望や不安材料は何かを聞くようにしている。初対面での第一印象は大切と感じているので、対応に十分配慮しながら面談している。	入居前に面会に行き、本人様と話をしして要望や不安材料は何かを聞くようにしている。初対面での第一印象は大切と感じているので、対応に十分配慮しながら面談している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも入居前に面談行い、入居までの経緯や苦労話を聞いて、共感し、ねぎらいの言葉をかけている。初対面での第一印象は大切なため、十分気をつけて面談している。	家族様にも入居前に面談行い、入居までの経緯や苦労話を聞いて、共感し、ねぎらいの言葉をかけている。初対面での第一印象は大切なため、十分気をつけて面談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療面の不安については法人の看護部と連携し、またリハビリなどはリハビリ部に相談するなど専門職と連携しながら取り組んでいる。	医療面の不安については法人の看護部と連携し、またリハビリなどはリハビリ部に相談するなど専門職と連携しながら取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはなるべく一緒に行って頂くようなプランに心がけている。	できることはなるべく一緒に行って頂くようなプランに心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の家族様への要望などを伝え、できるだけ要望が叶うような働きかけをしている。	本人様は家族に会いたいとの希望があるが、家族様の受け入れが叶わない方がいらっしゃる。無理強いせず、少しずつ要望を訴えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。	夫への面会希望あり、家族様に相談し了承を受けた上で、家族の送迎、付き添いのもと面会に行った。	入居までの人間関係は本人や家族はもとより、担当のケアマネジャーや利用していたサービス事業所、時には医師からも話を聞き情報を集めている。それらを基にした具体的な支援では電話の取次ぎや盆正月の帰宅、本人の想いに応じて面会に同行した例もある。事業所で暮らしていても、これまでの関係が維持できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくホールで過ごしていただき、コミュニケーションの取次をしている。洗濯物たたみなど一緒にしていただくような環境作りをしている。	気があう方合わない方がいらっしゃるため、食堂の座席の位置を工夫したり、職員が個別に関わったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療のため契約終了後も家族様の状況によっては面会に継続的に行き、洗濯物の回収、洗濯を行っている。	入院治療のため契約終了後も家族様の状況によっては面会に継続的に行き、洗濯物の回収、洗濯を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なかなか自分の希望を言える方が少ない。日頃の会話や生活状況から思いを引き出すよう努力している。	本人様の希望を聞いて、できることはなるべく聞くようにしている。言えない方に対しては生活状況などから判断している。	利用者が想いを話してくれるのは一対一で相手をしている時である。入浴中の寛いだひとときや、居室で話し相手をしている時などである。聞き取ったことは介護日誌や申し送り等で共有を図り、カンファレンスで周知されることもある。利用者の笑顔をひとつの目安として把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様や担当ケアマネジャーに話を聞き、生活歴や家族関係など情報収集し把握に努めている。家族様との良好な関係作りに力を入れ、関係作りができたところで本音などを聞き出している。	入居前に家族様や担当ケアマネジャーに話を聞き、生活歴や家族関係など情報収集し把握に努めている。家族様との良好な関係作りに力を入れ、関係作りができたところで本音などを聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット毎に職員を固定にし、顔なじみの関係作りに努め、個々の状態把握に努めている。またケース会議を月1回実施し、個々の状態を報告し共有している。	ユニット毎に職員を固定にし、顔なじみの関係作りに努め、個々の状態把握に努めている。またケース会議を月1回実施し、個々の状態を報告し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリング行い、6ヶ月ごとにプランの見直しを行っている。家族様や本人に希望を伺うが、なかなか具体的な希望がでない。職員同士で今何が一番必要か話し合い、立案している。	毎月モニタリング行い、6ヶ月ごとにプランの見直しを行っている。家族様や本人に希望を伺うが、なかなか具体的な希望がでない。職員同士で今何が一番必要か話し合い、立案している。	6ヶ月ごとの設定期間はあるものの、変化があれば臨機応変に見直しを行っている。本人の希望は日々のケアの中で推し量り、家族の要望は来所時に汲み取ろうとしている。把握に窮することはあるが、残存能力の維持はどの家族にも望まれている。事前アンケートでは殆どの家族が「ケアプランは分かり易く説明を受け、一緒に内容の話し合いをしている」と回答している。事業所が家族の顔を見ながら話すことを大切にしている結果である。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々のケースを記入し、プランの実行確認も行っている。管理日誌には情報伝達や家族様との関わりを記入し共有している。	毎日個々のケースを記入し、プランの実行確認も行っている。管理日誌には情報伝達や家族様との関わりを記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中は面会に行き、洗濯物などの管理を行っている。また配偶者が面会に来れない場合は送迎など行っている。	入院中は面会に行き、洗濯物などの管理を行っている。また配偶者が面会に来れない場合は送迎など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は行っていない。	地域資源の活用は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が当法人のかかりつけである。病院併設ということで選ばれているところも大きい。密に連携をとることで医療面が安心しているとの家族様の意見がある。	ほとんどの方が当法人のかかりつけである。病院併設ということで選ばれているところも大きい。密に連携をとることで医療面が安心しているとの家族様の意見がある。	利用者は元々が母体病院の患者である。馴染みの医師による継続的な医療が受けられることで信頼は厚い。事前アンケートでは、殆どの家族が健康管理等の不安はないと答えている。2週間ごとの往診や、他の病院へ受診の際は家族と共に職員も同行するという支援もその理由である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問診療と1週間に1回看護師が状態確認のために来荘し、体調面の管理をさせていただいている。そのためにも情報をこまめに提供している。	2週間に1回の訪問診療と1週間に1回看護師が状態確認のために来荘し、体調面の管理をさせていただいている。そのためにも情報をこまめに提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時職員が付き添い、日頃の状況を説明している。毎日面会に行き、状態確認し、洗濯も家族様に代わって行っている。	入院時職員が付き添い、日頃の状況を説明している。毎日面会に行き、状態確認し、洗濯も家族様に代わって行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族様には看取りケアを行っていることを説明し、その時期が来たら再度、家族様、主治医、看護師、職員と話し合いをもち、看取りを希望された場合は連携をとりながら取り組んでいる。	入居時に家族様には看取りケアを行っていることを説明し、その時期が来たら再度、家族様、主治医、看護師、職員と話し合いをもち、看取りを希望された場合は連携をとりながら取り組んでいる。	指針があり入居時に説明もを行っている。これまでに看取りの経験があり、希望があればその用意もある。家族会で講座のテーマとして取り上げたことがきっかけとなり、家族向けのパンフレットも作成している。そこには徐々に低下していく身体機能や事業所の想いも記されている。すぐ近くに母体病院があることは心強く、勉強会を開くことで職員の不安にも対処している。容態の変化に伴い何度でも話し合いを重ね、本人や家族が安心して納得した最期が迎えられよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し実施している。緊急時は「ハリーコール」を行い、医師、看護師など全職員がかけつける体制になっている。実際活用している。	緊急時の対応マニュアルを作成し実施している。緊急時は「ハリーコール」を行い、医師、看護師など全職員がかけつける体制になっている。実際活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回実施し、それ以外に水害訓練も行っている。非常連絡網には地域の方の電話番号も記載している。	火災避難訓練は年2回実施し、それ以外に水害訓練も行っている。非常連絡網には地域の方の電話番号も記載している。	避難訓練は全職員参加で、夏は19時から行っている。利用者も避難を体験し、職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知している。スプリンクラーが設置され、隣接する法人施設もあり、救援は早いと思われる。過去の地震の際に家具類の固定を見直し、非常食や水の備蓄もある。訓練での反省点などは、その場や朝礼時、職員会議でも伝えていく。近年、消防署の立会いはなく、事業所独自で行っているが、地元消防団による点検を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA（ 1F ） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（2F ） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・倫理の勉強会を実施し、言葉使いなどには十分注意している。月目標にもあげて取り組んだ。お便りなどに写真を使用する場合は承諾を得るようにしている。	接遇・倫理の勉強会を実施し、言葉使いなどには十分注意している。月目標にもあげて取り組んだ。お便りなどに写真を使用する場合は承諾を得るようにしている。	接遇等の勉強会は年に数回あり、法人全体の月替わり目標に事業所独自の目標も付け加えるほど真摯に取り組んでいる。トイレや入浴の介助では最も配慮が必要だが、ドアを閉める、自分がされて嫌なことはしない等々、基本的なことがきちんと守られている。また、個人情報の取扱いに対する職員の意識も高く、日頃から業務上の内容は大きな声を控え、写真等の掲載も入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声かけしているが、なかなか希望を言える方が少ない。	自己決定できるような声かけしているが、なかなか希望を言える方が少ない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時なども本人様へ希望を聞いて、入りたく無いと言われたら、日にちを変更したりしている。	入浴時なども本人様へ希望を聞いて、入りたく無いと言われたら、日にちを変更したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには十分注意している。行事などの時には化粧などもしている。	身だしなみには十分注意している。行事などの時には化粧などもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを一緒にできる方が少ない。土曜日はお楽しみメニューとして人気がある献立や希望がある献立にしている。	食事作りを一緒にできる方は少ないが、食材の皮むきなどは手伝っていただいている。土曜日はお楽しみメニューとして人気のある献立や希望がある献立にしている。	献立は母体病院の栄養士が作り、栄養価も計っている。職員は好き嫌いやアレルギーを把握しており、献立によっては別の食材で対応している。できるだけ自分で口へ運んでももらいたいとの想いから工夫もし、介助は最小限に止めている。病院の職員から嚥下指導を受け実践もしている。対面式キッチンのため料理が出来上がっていくのも分かり、匂いと共に食事の時間を知らせている。職員は検食者のみが同じものを食べ、他は持参の弁当などでテーブルを囲み、食材や味付け、季節の話などをしながら和やかな食事風景である。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない方に対しては栄養部と相談して、補助食品の提供など行っている。水分が少ない方はコーヒーマルなど好みの物を提供したり、汁物を多めに提供したりしている。	食事摂取量が少ない方に対しては栄養部と相談して、補助食品の提供など行っている。水分が少ない方はコーヒーマルなど好みの物を提供したり、汁物を多めに提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。歯磨きができない方にはガーゼで清拭したりしている。定期的に摂食嚥下委員会にラウンドしてもらい、口腔内の状況を見ていただいたり指導していただいたりしている。	毎食後行っている。歯磨きができない方にはガーゼで清拭したりしている。定期的に摂食嚥下委員会にラウンドしてもらい、口腔内の状況を見ていただいたり指導していただいたりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツの種類も状態に応じて検討・対応している。また排泄チェック表を活用しながら必ずトイレに座って頂くような取り組みも行っている。	オムツの種類も状態に応じて検討・対応している。また排泄チェック表を活用しながら必ずトイレに座って頂くような取り組みも行っている。	排泄に関して自立した利用者も複数いるが、職員は任せたまではなく、さりげない見守りを行っている。チェック表から体調も読み取り、予測による誘導など細かな対応をしている。入居後に紙おむつから改善した例もある。これは利用者にとって費用負担の軽減に繋がっている。また、便座周りの設備として手摺りはもちろん、ひじ掛け等もあり、立ち座りを補助する事によって自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なかなか運動はできていない。牛乳を飲んで頂いたりしている。毎日排便チェックを行い、定期的に下剤を服用してもらい、排便につなげている。	なかなか運動はできていない。牛乳を飲んで頂いたりしている。毎日排便チェックを行い、定期的に下剤を服用してもらい、排便につなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回を目標に入浴していただいている。介護度の重度化に伴い、リフト浴を設置している。本人に入るか希望を聞いて、入りたくないと言われたら、日程を変更している。	週3回を目標に入浴していただいている。介護度の重度化に伴い、リフト浴を設置している。本人に入るか希望を聞いて、入りたくないと言われたら、日程を変更している。	入浴は概ね一日置きとしているが、準備は毎日出来ており、毎日入る利用者もいる。一方、拒む方も多く、タイミングや誘導を工夫しながら対応している。2ユニットの事業所だが、一階の浴室にはリフト浴の設備がある。その設置により、利用者には安全な入浴支援ができ、職員にとっては負担軽減にもなっている。入浴前に脱衣場の暖気を浴室へ送り、冬場のヒートショック対策としている。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、職員は見守るというケアである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で休息を希望される方以外はホールですごしたり、ソファで休んで頂いている。眠そうにされているときは、居室に誘導している。	自室で休息を希望される方以外はホールですごしたり、ソファで休んで頂いている。眠そうにされているときは、居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分で管理したい方に関しては、意思を尊重し、自己管理できるように支援している。処方された薬の内容はケース記録に閉じている。	自分で管理したい方に関しては、意思を尊重し、自己管理できるように支援している。処方された薬の内容はケース記録に閉じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換には散歩を多く取り入れている。	気分転換には散歩を多く取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望はあまりない。数家族のみ定期的に自宅まで外出されている。希望時は外出支援している。	外出の希望はあまりない。数家族のみ定期的に自宅まで外出されている。希望時は外出支援している。	本人の口から外出の希望が聞かれることは殆どないが、天候や体調をみながら、当日に決めてドライブに出掛けることもある。法人の車椅子対応車両を借り、往復一時間程度の道のりであれば利用者への負担も軽く、実施できている。周辺への散歩は日常的に行われ、日差しを浴びる事のメリットや五感の刺激にもなっている。車椅子に乗れるなら外へ、また、季節によって変わる風を感じて欲しいというのが職員の想いである。全く外へ出ないという利用者はいない。(看取り期を除く)	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されている方はいらっしゃる。	1名のみ希望あり、所持されている。買い物は付き添っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば取り次いでいる	携帯電話を持っている方もいらっしゃる。取り扱いは職員が間に入って、取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節のある花を飾ったり、クリスマスや正月などの飾り付けを行い雰囲気作りをしている。居室は好みで飾ってもらっている。	玄関には季節のある花を飾ったり、クリスマスや正月などの飾り付けを行い雰囲気作りをしている。居室は好みで飾ってもらっている。	フロアの中心に対面式キッチンがあり、共用部分や各居室がそれを取り巻く設計である。食器の音や匂いが食事時であることを知らせ、暮らしを感じさせている。廊下に歩行を妨げる物はなく、利用者が日中の殆どを過ごすリビングには畳コーナーもある。職員が手入れしている菜園が目前にあり、その脇には桜が大きく育っている。車の騒音もなく、トイレや浴室はきれいに掃除され、嫌な臭気はない。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせる ような居場所の工夫をしている	ソファーには気の合う仲間同志で 座って話などされている。	ソファーには気の合う仲間同志で 座って話などされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家 族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には自由に物を置いてもらって いいので、なじみの物を持って来て いただきように話すも、あまり持って 来られない。	居室には自由に物を置いてもらって いいので、なじみの物を持って来て いただきように話すも、あまり持って 来られない。	居室に持ち込む品物は、火気等の 危険物以外に制限はしていない。歳 を重ねる毎に利用者が手伝えること も減り、掃除等は職員が行ってい る。部屋の飾り付けなども本人に確 認しながら一緒に行い、居心地良く 過ごせるよう配慮している。また、担 当職員を決めることはせず、全員で カバーしている。家族が希望すれば 宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工夫して いる	建物内はバリアフリーになっており、 自由に動いていただいている。	建物内はバリアフリーになっており、 自由に動いていただいている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○	○	3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない